
ぼくの世界

雪兎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ぼくの世界

【Nコード】

N4115B

【作者名】

雪兎

【あらすじ】

ぼくはきょう「悪いこと」がおこった。そのせいでぼくのじんせいはかわってしまった。ぼくのことなんかほっとけばいいのに…

0・月が赤く笑うとき

帰らなくちゃ

朝、寝坊なんかしなけりやよかった。
遅刻して、説教されて、罰そうじさせられた。

「あゝあ、いやだな」

そうじに苦戦して遅くなった。

辺りはもう真っ暗で月まででてる。

いそがないと琴音さんに怒られるし、
それに……

それに、今日の月はなんだか赤くて、妖しく笑ってるみたいだ。
月が赤く笑うとき、悪いことがおきる。

小さい頃、おばあちゃんがいつも言ってた話。

悪いこと……何がおこるんだろ。

辺りがまた少しずつ暗くなる。

いそがなくちゃと思ってぼくは近道を通って歩くことにした。べ、
べつに怖いからとかじゃない。

いつもとは違う道、右に曲がってぼくはホッとした。でもいつもは
人で賑わってる道は、

今日はまったく誰も居なくて、ぽつん、とある電灯の光がぼくの恐
怖を感じさせた。

「ひッ……」

ゾゾッ

寒気を感じたぼくは怖くなって、走りだした。

×××

×××

「遅いなあ、悠ちゃん」

やっぱり朝、寝坊したせいかしら？

いつもより35分ぐらいに起きたものだし、遅刻して説教されたのね、きつと。

片倉先生、厳しいから罰そうじさせられたのね。

そうじゃなかったらこんなに遅いわけないし。

でもねえ…もう時計は8時30分だし、

まったくどうしたものかしら。

星も、月もでてい……！？

「月が…、…赤い…」

！？悠ちゃんがあぶない！！

大変…

「間に合うかしら」

ジーパンに履き替えて、

書を抱えて、

勢いよく飛び出した。

0・月が赤く笑うとき（後書き）

月が、赤い。赤く、笑う。何が起きる？何が起こる？何が狂う？

1・怪しい奴ら

「はぁ、はぁ、はぁ」

走っても走っても
脱け出せない。

やっぱり、何かがおきてる。
「でも、でも…何が…」

チリーン

後ろから鈴の音が聞こえた。

チリーン、チリーン

その音はだんだんぼくに近くなってくる。

チリン、チリーン

来る

バッ

後ろをふりかえった。

「…誰？」

黒いコートに黒い帽子。髪も黒っぽくて。

「…黒づくめ…」

あやしい。

「………」

黒い人は無言。

「………」

くいつ

黒い人は来いと言つかのように手招きをした。

「何…？」

黒い人はそのまま真っ直ぐ歩いて左へ曲がった。

「…おい、ちよつと」

ぼくは黒い人を追い掛けた。

x x x

x x x

「悠ちゃん、悠ちゃん」

随分と走った。

悠ちゃんが居そうな場所を全部回った。

でも、見つからない。

「はあ、はあ、悠ちゃん」

探さなきゃ、

きっと悠ちゃんの身に何かがおこってる。

悠ちゃんを助けなきゃ、

「はあ、は、きゃあ!!」

ドス、

な、何!!

ぶつかつたやつを見ると、白いフードを被つた銀髪の男が居た。

「あ、ごめんなさ、」

「貴方は杉刃 琴音ですか？」

へ？私の名前…

「何で知ってるのです？」

「もしかこの子、紅連の者…？」

いや、そんなはずない。

あそこの私の情報は削除したはず。

だからこんなにはやく分かるはずがない。

「彼方は…」

「ふふ、私は紅連の者ではありませんよ？

私らは、白槍の者です」

…白槍…!!

………どこだ、それ。

聞いたことのない。

新しいのか？

「白槍…」

男は笑う。

「ははッ、やっと見つけた。杉刃 琴音。

あはは、双樹 悠はどこだ？」

妖しく、笑う。

コイツ…悠ちゃんを知ってる？

「悠ちゃんを、知ってるの？」

「ははッ、ビンゴだ。

いや、知ってる。

が、知らない」

理解不明よ。

「矛盾、してるわね」

また男は笑った。

「だが私らには彼女が必要なのだ」

何のために…

「くははッ、君はそのための犠だ？」

チッ、やばいと思って走りだす。

「逃がさない、

『黒之槍』」

ぶわッと男の影が動きだす。

影は槍のように私の足に降りかかる。

「あッ、

『蒼之壁』」

ゆらりと空がうごく。

私のまわりは霧のようなもので包まれ、目の前には青い透明な壁が広がる。

ガキン、

壁に影がぶつかった。

やった、と思った。
でも、

「くす、あつまゝい」
次の瞬間、

ドゴッ、

バリ、バリーッ

壁は一気に崩れさり、
瞬きの間に、
ぐいッ

足に、巻き付いた。

「んふ、捕まえた」

嬉しそうに、悲しそうに男は笑っていた。

1・怪しい奴ら（後書き）

闘え、闘え。我等の為に。守れ、守れ。我等の為に。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4115b/>

ぼくの世界

2011年1月22日02時53分発行